

第2章 人口の基本的属性

1 男女の別（人口性比）

(1) 人口性比

本県の人口性比は90.9、平成7年に比べ0.6ポイント低下

本県の人口を男女別にみると、男性が2,388,824人（総人口の47.6%）、女性が2,626,875人（同52.4%）で、女性が男性を238,051人上回っている。

平成7年と比べると、男性は31,299人（1.3%）、女性は51,007人（2.0%）増加しており、増加率が大きい。年齢別の人口性比では100を上回っているのは、19歳の104.9が一番高くなっている。25～29歳になると100を下回り95.3となり、45～49歳に95.7まで上昇した後、70～74歳の77.4まで緩やかに低下している。75～79歳になると61.9と著しく低くなり、これは戦争による男性の損失が大きく影響しているものと考えられる。また、80歳以上では、年齢が高くなるに従って人口性比はさらに低下し、80～84歳では51.3、90～94歳では31.3となり、女性3人に対し男性が1人の割合となった（昭和5年～平成12年）

年齢3区分別にみると、15歳未満は104.7、15～64歳は95.0、65歳以上は67.1となっており、平成7年に比べ、15歳未満は横ばいであったが、15～64歳は0.2ポイント、65歳以上は1.2ポイント上昇している。

年次	15歳未満	15～64歳	65歳以上	人口性比
大正9年	2,188,249	1,116,818	1,071,431	104.2
昭和5年	2,527,119	1,280,624	1,246,495	102.7
15 1)	3,094,132	1,575,841	1,516,732	103.9
25	3,530,169	1,745,606	1,784,563	97.8
35	4,006,679	1,954,636	2,052,043	95.3
45	4,027,416	1,932,033	2,095,383	92.2
50	4,292,963	2,070,190	2,222,773	93.1
55	4,553,461	2,200,450	2,353,011	93.5
60	4,719,259	2,270,496	2,448,763	92.7
平成2年	4,811,050	2,303,487	2,507,563	91.9
7	4,933,393	2,357,525	2,575,868	91.5
12	5,015,699	2,388,824	2,626,875	90.9

注1) 昭和15年の男女別人口は外国人を含まない。

図3 年齢（5歳階級）別人口性比
（平成12年）

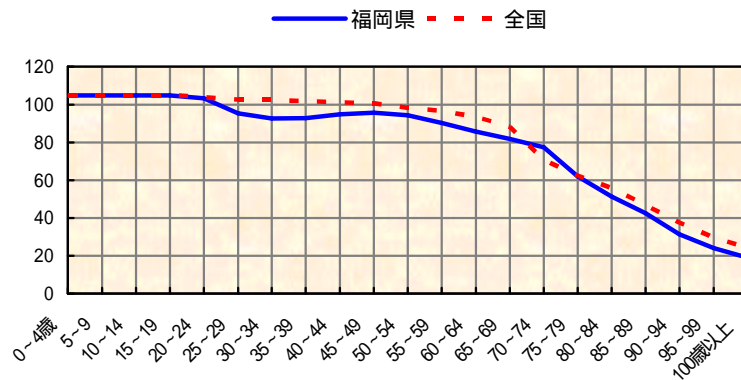


表14 年齢（5歳階級）別人口性比の推移
（平成2年～12年）

年 齢	人 口 性 比		
	平成2年	平成7年	平成12年
総 数 1)	91.9	91.5	90.9
0～4歳	105.1	104.5	104.7
5～9	104.8	105.0	104.7
10～14	104.6	104.5	104.8
15～19	106.8	105.8	104.9
20～24	99.6	103.7	103.2
25～29	89.4	90.9	95.3
30～34	94.6	92.8	92.7
35～39	96.0	95.2	92.7
40～44	95.2	96.3	94.8
45～49	91.6	95.6	95.7
50～54	88.4	91.6	94.2
55～59	87.8	87.4	90.2
60～64	87.0	85.7	85.7
65～69	73.0	83.0	81.9
70～74	66.5	67.9	77.4
75～79	63.6	59.4	61.9
80～84	55.4	53.2	51.3
85～89	47.0	42.6	42.4
90～94	36.9	35.0	31.3
95～99	28.7	27.4	24.0
100歳以上	20.3	19.9	18.9
(再掲)			
15歳未満	104.8	104.7	104.7
15～64歳	94.1	94.8	95.0
65歳以上	64.4	65.9	67.1
75歳以上	56.7	52.4	52.1

注1) 年齢「不詳」を含む。

(2) 市町村の人口性比

宇美町、苅田町及び粕屋町では、男性人口が女性人口を上回る

人口性比を市町村別にみると、宇美町の101.3が最も高く、以下、苅田町が100.8、粕屋町が100.1となっており、この3町が100を超えている。逆に、最も低いのは山田市の82.2となっている。

(3) 地域別人口性比

福岡地域で高い人口性比

人口性比を地域別にみると、福岡地域の93.3が最も高く、以下、北九州地域が89.8、筑後地域が88.8、筑豊地域が86.8と続いており、県平均(90.9)を上回っているのは福岡地域のみとなっている。

表15 地域別にみた人口性比の高い市町村
(平成12年)

人口性比	地域、市町村	人口性比	地域、市町村	人口性比	地域、市町村	人口性比	地域、市町村	人口性比
	福岡地域	93.3	筑後地域	88.8	筑豊地域	86.8	北九州地域	89.8
100以上	宇美町 粕屋町	101.3 100.1					苅田町	100.8
95～100未満	那珂川町 春日市 大野城市	97.5 96.7 95.1			庄内町	96.2		
90～95未満	筑紫野市 新宮町 須恵町 福岡市 志免町 古賀市 篠栗町 大島村 久山町 太宰府市 夜須町 前原市	94.7 94.5 94.2 93.4 93.3 92.7 92.6 92.6 92.4 91.5 91.4 91.0	広川町 山川町 立花町 三潴町	94.2 91.2 91.0 91.0	飯塚市	92.0	芦屋町	94.1
90.9								
	宗像市	90.2	北野町 久留米市 筑後市 大川市	90.7 90.7 90.6 90.5			椎田町	90.6
90未満	11市町村		18市町村		23市町村		14市町村	

注) 90.9は県の人口性比である。

2 年齢構造

(1) 本県の年齢別人口構造

調査開始以来初めて老年人口が年少人口を上回り、老年人口は総人口の17.4%を占める

本県の人口を年齢3区分別にみると、年少人口(15歳未満の人口)が742,740人(総人口の14.8%)、生産年齢人口(15~64歳の人口)が3,393,080人(同67.6%)、老年人口(65歳以上の人口)が870,290人(同17.4%)となっており、調査開始以来初めて老年人口が年少人口を上回った。

表16 年齢(3区分)別人口の推移
(大正9年~平成12年)

年次	人口(人)				割合(%)			
	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口
大正9年	2,188,249	772,653	1,320,209	95,387	100.0	35.3	60.3	4.4
昭和5年	2,527,119	909,651	1,513,149	104,319	100.0	36.0	59.9	4.1
15 ¹⁾	3,092,573	1,099,650	1,866,532	126,382	100.0	35.6	60.4	4.1
25	3,530,169	1,250,630	2,126,409	153,012	100.0	35.4	60.2	4.3
30	3,859,764	1,325,668	2,355,630	178,439	100.0	34.3	61.0	4.6
35	4,006,679	1,257,355	2,541,467	207,857	100.0	31.4	63.4	5.2
40	3,964,611	1,040,391	2,678,982	245,238	100.0	26.2	67.6	6.2
45	4,027,416	943,395	2,791,505	292,516	100.0	23.4	69.3	7.3
50	4,292,963	1,002,084	2,933,745	354,847	100.0	23.3	68.3	8.3
55	4,553,461	1,049,782	3,073,049	426,495	100.0	23.1	67.5	9.4
60	4,719,259	1,028,211	3,190,270	426,495	100.0	21.8	67.6	9.0
平成2年	4,811,050	910,356	3,287,878	597,869	100.0	18.9	68.3	12.4
7	4,933,393	815,170	3,382,470	728,574	100.0	16.5	68.6	14.8
12	5,015,699	742,740	3,393,080	870,290	100.0	14.8	67.6	17.4

注1) 昭和15年は外国人を含まない。

拡大を続ける老年人口の割合

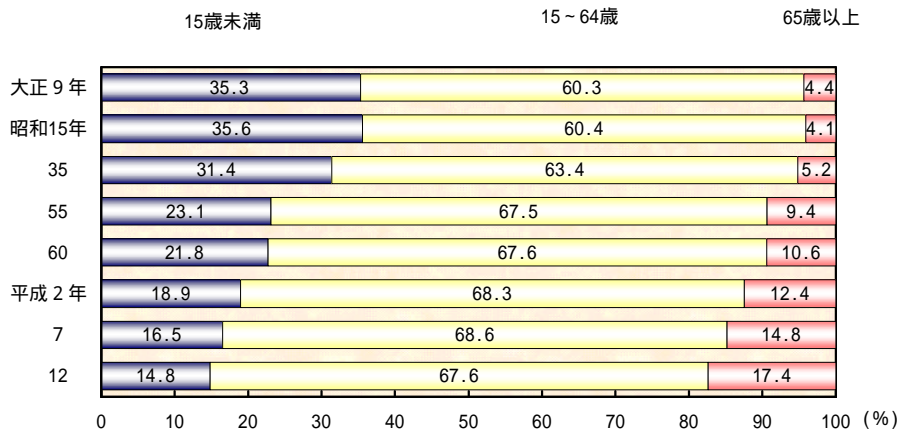
年齢3区分別人口を平成7年と比べると、年少人口は72,430人(8.9%)減少しているのに対し、生産年齢人口は10,610人(0.3%)、老年人口は141,716人(19.5%)増加しており、特に老年人口の増加率が高くなっている。

年齢3区分別人口割合を平成7年と比べると、年少人口は1.7ポイント、生産年齢人口は1.0ポイント低下し、老年人口は2.6ポイント上昇している。

表17 年齢(3区分)別人口及び人口増減
(平成7年・12年)

年齢区分	人口(人)				平成7年~12年の人口増減	
	平成12年	構成比(%)	平成7年	構成比(%)	増減数(人)	増減率(%)
総数	5,015,699	100.0	4,933,393	100.0	82,306	1.7
年少人口	742,740	14.8	815,170	16.5	72,430	8.9
生産年齢人口	3,393,080	67.6	3,382,470	68.6	10,610	0.3
老年人口	870,290	17.4	728,574	14.8	141,716	19.5

図4 年齢(3区分)別人口割合の推移
(大正9年~平成12年)



注) 昭和15年は外国人を含まない。

急速に上昇する老年化指数

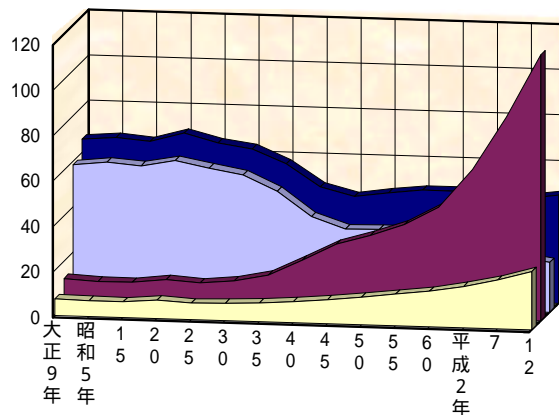
人口の年齢構造の特徴を表す指標として用いられる年少人口指数(生産年齢人口に対する年少人口の比率)、老年人口指数(生産年齢人口に対する老年人口の比率)及び従属人口指数(年少人口指数と老年人口指数の和)をみると、年少人口指数は21.9、老年人口指数は25.6、従属人口指数は47.5となっている。

平成7年と比べると、年少人口指数は2.2ポイント低下し、老年人口指数は4.1ポイント、従属人口指数は1.9ポイントそれぞれ上昇している。

人口高齢化の程度の進行状況をより敏感に示す指標である老年化指数(年少人口に対する老年人口の比率)をみると、平成7年(89.4)に比べ27.8ポイント上昇し、117.2となっている。

図5 年齢構造指数の推移
(大正9年~平成12年)

■老年人口指数 ■老年化指数 ■年少人口指数 ■従属人口指数



平均年齢は平成7年に比べ男性1.7歳、女性1.8歳上昇

平均年齢をみると、男性は39.4歳、女性は42.6歳で、平成7年に比べ、それぞれ1.7歳、1.8歳上昇している。また、年齢中位数は男性が39.1歳、女性が42.9歳で、平成7年に比べ、それぞれ1.6歳、1.8歳上昇している。

なお、人口集中地区の人口の平均年齢は、男性が38.6歳、女性が41.6歳、年齢中位数は男性が37.5歳、女性が41.2歳で、いずれも県平均を下回っている。

(2) 市町村別にみた年齢別人口構造

全市町村で老年人口の割合が拡大

市町村別に年少人口割合をみると、那珂川町が19.2%で最も高く、以下、新宮町が18.9%、春日市が18.3%、前原市が17.6%、大野城市が17.4%と続いており、50市町村で県平均（14.8%）を上回っている。一方、最も低いのは矢部村の11.0%で、以下、犀川町が11.5%、小竹町が12.4%、添田町が12.6%、庄内町が12.7%と続いている。

生産年齢人口割合をみると、福岡市が72.1%で最も高く、以下、粕屋町が71.2%、春日市が70.7%、大野城市が70.4%、宇美町が70.3%と続いており、19市町村で県平均（67.6%）を上回っている。一方、最も低いのは星野村の49.5%で、以下、矢部村が50.9%、大島村が52.1%、宝珠山村が52.8%、小石原村が54.1%と続いている。

老年人口割合をみると、矢部村が38.2%で最も高く、以下、星野村が35.4%、宝珠山村が34.4%、大島村が33.7%、小石原村が31.6%と続いており、75市町村で県平均（17.4%）を上回っている。一方、最も低いのは春日市の10.5%で、以下、那珂川町が11.1%、粕屋町が11.9%、大野城市が12.1%、新宮町が12.7%と続いている。

表18 市町村別年少人口割合
(高い市町村) (低い市町村)

順位	市町村	割合 (%)		順位	市町村	割合 (%)	
		平成12年	平成7年			平成12年	平成7年
1	那珂川町	19.2	21.0	1	矢部村	11.0	11.8
2	新宮町	18.9	20.4	2	犀川町	11.5	13.6
3	春日市	18.3	20.2	3	小竹町	12.4	15.3
4	前原市	17.6	19.2	4	添田町	12.6	14.6
5	大野城市	17.4	18.6	5	庄内町	12.7	14.6
6	古賀市	17.4	19.2	6	山田市	12.8	15.4
7	篠栗町	17.3	17.8	7	宝珠山村	12.8	14.7
8	大刀洗町	17.1	18.4	8	上陽町	13.0	16.1
9	粕屋町	16.9	18.5	9	高田町	13.2	15.7
10	吉富町	16.6	17.7	10	赤村	13.2	16.4

表19 市町村別生産年齢人口割合
(高い市町村) (低い市町村)

順位	市町村	割合 (%)		順位	市町村	割合 (%)	
		平成12年	平成7年			平成12年	平成7年
1	福岡市	72.1	72.6	1	星野村	49.5	53.3
2	粕屋町	71.2	70.6	2	矢部村	50.9	57.5
3	春日市	70.7	71.4	3	大島村	52.1	55.3
4	大野城市	70.4	71.2	4	宝珠山村	52.8	57.2
5	宇美町	70.3	68.3	5	小石原村	54.1	53.3
6	太宰府市	70.1	71.3	6	大平村	56.8	59.1
7	筑紫野市	69.9	69.3	7	黒木町	57.4	59.8
8	志免町	69.5	70.6	8	犀川町	57.8	60.8
9	那珂川町	69.4	69.7	9	添田町	58.4	60.9
10	須恵町	69.1	69.0	10	上陽町	58.7	60.3

表20 市町村別老年人口割合
(高い市町村) (低い市町村)

順位	市町村	割合 (%)		順位	市町村	割合 (%)	
		平成12年	平成7年			平成12年	平成7年
1	矢部村	38.2	30.6	1	春日市	10.5	8.2
2	星野村	35.4	30.1	2	那珂川町	11.1	9.3
3	宝珠山村	34.4	28.1	3	粕屋町	11.9	10.7
4	大島村	33.7	28.7	4	大野城市	12.1	9.9
5	小石原村	31.6	29.7	5	新宮町	12.7	11.4
6	犀川町	30.7	25.6	6	宇美町	13.3	11.4
7	大平村	29.2	25.2	7	福岡市	13.3	11.0
8	添田町	29.0	24.5	8	古賀市	13.6	11.8
9	上陽町	28.3	23.6	9	筑紫野市	13.7	12.1
10	黒木町	27.5	22.6	10	志免町	14.1	11.6

(3) 人口集中地区の年齢別人口構造

人口集中地区で低い年少人口及び老年人口の割合

人口集中地区の年齢3区分別人口割合をみると、年少人口は14.7%、生産年齢人口は69.3%、老年人口は15.7%となっており、人口集中地区以外の地区（それぞれ15.0%、63.9%、21.0%）に比べ、生産年齢人口の割合が高くなっている。

また、人口集中地区の年少人口指数は21.2、老年人口指数は22.7、従属人口指数は43.9、老年化指数は106.8で、いずれも人口集中地区以外の地区（それぞれ23.5、32.8、56.3、139.9）に比べ低くなっている。

(4) 地域別にみた年齢別人口構造

老年人口割合は平成7年に比べすべての地域で上昇

地域別に年齢3区分別人口割合をみると、年少人口割合は、福岡地域が15.2%、筑後地域が15.4%で県平均(14.8%)を上回っているが、筑豊地域は14.0%、北九州地域は14.1%で下回っている。

生産年齢人口割合は、福岡地域が70.5%で県平均(67.6%)を上回っているが、筑後地域は64.3%、筑豊地域は63.4%、北九州地域は66.3%で下回っている。

老年人口割合は、筑豊地域が22.6%、筑後地域が20.3%、北九州地域が19.5%で県平均(17.4%)を上回っているが、福岡地域は14.0%で下回っている。

平成7年と比べると、すべての地域において、年少人口及び生産年齢人口割合は低下し、逆に老年人口割合は上昇している。

表21 地域別年少人口及び割合の推移
(昭和55年～平成12年)

地 域	年 少 人 口 (0 ~ 14 歳)									
	昭和 55年	割合 (%)	昭和 60年	割合 (%)	平成 2年	割合 (%)	平成 7年	割合 (%)	平成 12年	割合 (%)
福 岡 県	1,049,782	23.1	1,028,211	21.8	910,356	18.9	815,170	16.5	742,740	14.8
福 岡 地 域	427,572	23.8	437,077	22.5	405,883	19.5	375,792	17.0	353,837	15.2
筑 後 地 域	197,524	22.6	188,996	21.4	167,123	19.1	148,909	17.0	133,506	15.4
筑 豊 地 域	102,404	20.9	103,910	20.8	91,360	18.6	77,856	16.1	65,064	14.0
北九州地域	322,282	23.2	298,228	21.4	245,990	18.0	212,613	15.6	190,333	14.1

表22 地域別生産年齢人口及び割合の推移
(昭和55年～平成12年)

地 域	生 産 年 齢 人 口 (15 ~ 64 歳)									
	昭和 55年	割合 (%)	昭和 60年	割合 (%)	平成 2年	割合 (%)	平成 7年	割合 (%)	平成 12年	割合 (%)
福 岡 県	3,073,049	67.5	3,190,270	67.6	3,287,878	68.3	3,382,470	68.6	3,393,080	67.6
福 岡 地 域	1,228,912	68.5	1,335,919	68.9	1,458,461	70.1	1,568,832	70.9	1,642,023	70.5
筑 後 地 域	575,815	65.9	580,284	65.8	576,756	65.8	574,610	65.5	558,861	64.3
筑 豊 地 域	325,553	66.3	324,173	64.9	316,751	64.6	310,964	64.3	295,104	63.4
北九州地域	942,769	67.8	949,894	68.0	935,910	68.6	928,064	68.2	897,092	66.3

表23 地域別老年人口及び割合の推移
(昭和55年～平成12年)

地 域	老 年 人 口 (65 歳 以 上)									
	昭和 55年	割合 (%)	昭和 60年	割合 (%)	平成 2年	割合 (%)	平成 7年	割合 (%)	平成 12年	割合 (%)
福 岡 県	426,495	9.4	499,228	10.6	597,869	12.4	728,574	14.8	870,290	17.4
福 岡 地 域	136,505	7.6	165,818	8.6	206,676	9.9	261,189	11.8	324,949	14.0
筑 後 地 域	100,668	11.5	113,037	12.8	130,659	14.9	153,476	17.5	176,566	20.3
筑 豊 地 域	63,175	12.9	71,673	14.3	82,084	16.7	94,671	19.6	105,315	22.6
北九州地域	126,147	9.1	148,700	10.6	178,450	13.1	219,238	16.1	263,460	19.5

老年化指数が161.9となった筑豊地域

地域別に年齢構造指数をみると、平成7年に比べ、すべての地域で年少人口指数は低下し、老年人口指数は上昇している。また、両者を合計した従属人口指数もすべての地域で上昇している。

また、老年化指数においてもすべての地域で大幅に上昇し、最も高いのは筑豊地域の161.9となっている。

表24 地域別年齢構造指数の推移
(平成2年～12年)

地 域	従属人口指数			年少人口指数			老年人口指数			老年化指数		
	平成 2年	平成 7年	平成 12年	平成 2年	平成 7年	平成 12年	平成 2年	平成 7年	平成 12年	平成 2年	平成 7年	平成 12年
福 岡 県	45.9	45.6	47.5	27.7	24.1	21.9	18.2	21.5	25.6	65.7	89.4	117.2
福岡地域	42.0	40.6	41.3	27.8	24.0	21.5	14.2	16.6	19.8	50.9	69.5	91.8
筑後地域	51.6	52.6	55.5	29.0	25.9	23.9	22.7	26.7	31.6	78.2	103.1	132.3
筑豊地域	54.8	55.5	57.7	28.8	25.0	22.0	25.9	30.4	35.7	89.8	121.6	161.9
北九州地域	45.4	46.5	50.6	26.3	22.9	21.2	19.1	23.6	29.4	72.5	103.1	138.4